

平成21年3月期
決算説明資料

平成21年5月18日

 川重冷熱工業株式会社

平成21年3月期 決算概要

当事業年度の当社の受注高は、空調機器本体で大型の吸収冷温水機等が大幅に減少したこと、改修改造工事・メンテナンスの減少により、前期比5億41百万円減の167億62百万円となり、売上高は、ボイラ機器本体で大型貫流ボイラをはじめとするほぼ全ての機種で増加したこと、改修改造工事・メンテナンスの増加により、前期比1億67百万円増の173億19百万円となりました。

利益面では、製品コストならびに諸費用の低減に努めましたが、営業利益は、前期比2億30百万円減の1億79百万円、経常利益は、前期比2億17百万円減の1億59百万円、当期純利益は、関係会社である同方川崎空調設備有限公司(中国)への出資金の評価損を特別損失として計上したことにより前期比2億92百万円減の1億22百万円の当期純損失となりました。

平成21年3月期 損益計算書



金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

	前 期	当 期	前 期 比	備 考
売 上 高	17,151	17,319	101.0%	主にボイラ機器の売上増加による
売上総利益	4,325	4,250	98.3%	
販売費及び一般管理費	3,916	4,071	104.0%	研究開発費の増加による
営業利益	409	179	43.8%	
営業外収益	19	30	157.9%	
営業外費用	51	49	96.1%	
経常利益	377	159	42.2%	
特別利益	-	29	-	
特別損失	-	306	-	関係会社出資金評価損計上による
税引前当期純損益	377	116	30.8%	
法人税、住民税及び事業税	97	50	51.5%	
法人税等調整額	109	44	40.4%	
当期純損益	170	122	71.8%	

平成21年3月期 貸借対照表



資産の部

金額単位:百万円(百万円未満切捨て)

	前 期	当 期	前 期 比	備 考
流動資産	8,782	8,298	94.5%	
現金及び預金	32	13	40.6%	
受取手形・売掛金	6,625	5,983	90.3%	
棚卸資産	1,847	1,297	70.2%	仕掛品の減少による
繰延税金資産	209	287	137.3%	
その他	67	716	1068.7%	短期貸付金の増加による
固定資産	4,206	3,758	89.3%	
有形固定資産	1,851	1,762	95.2%	
無形固定資産	209	216	103.3%	
投資その他の資産	2,145	1,780	83.0%	
資産合計	12,989	12,057	92.8%	

平成21年3月期 貸借対照表



負債・純資産の部

金額単位：百万円（百万円未満切捨て）

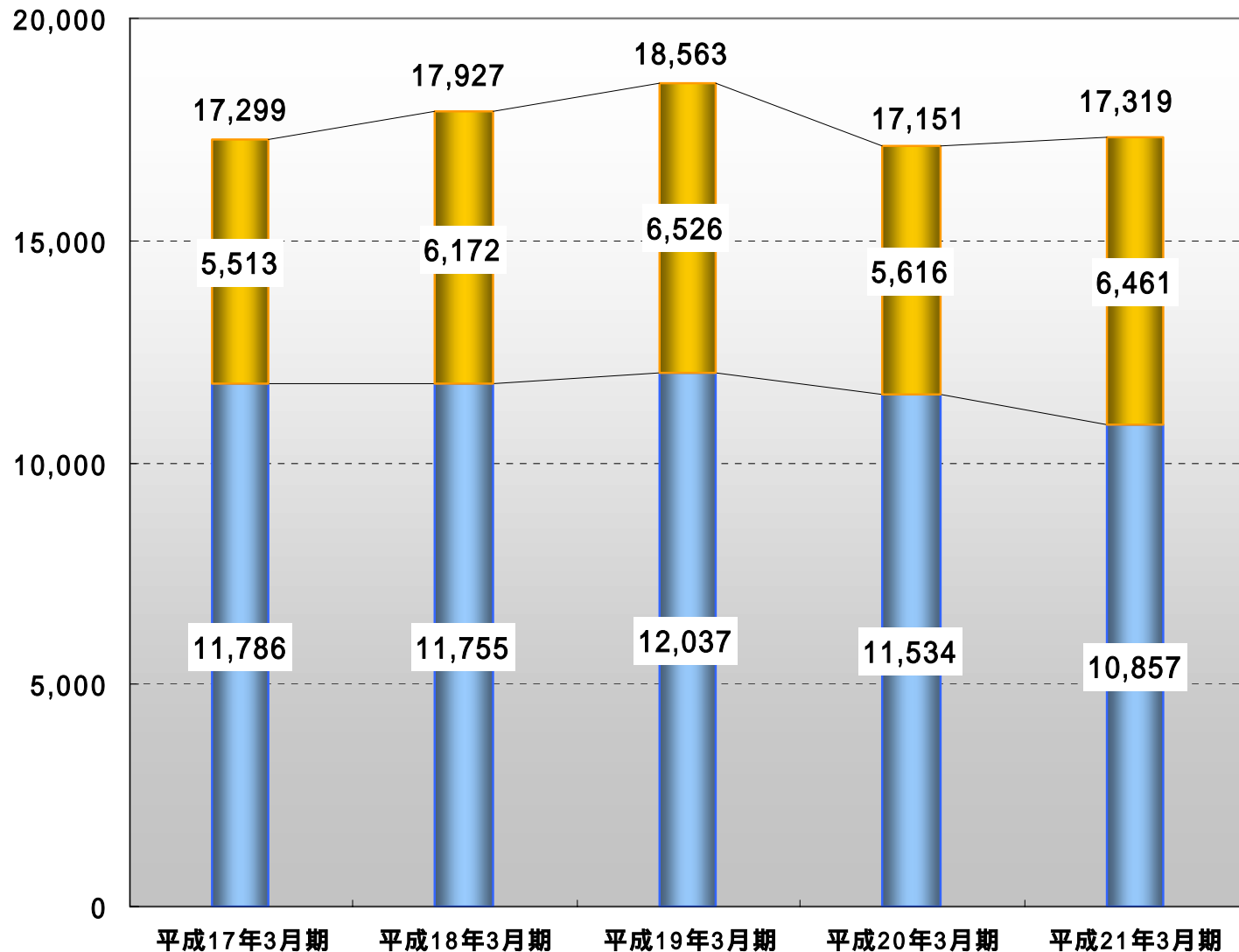
	前 期	当 期	前 期 比	備 考
流動負債	5,542	4,940	89.1%	
支払手形・買掛金	4,172	3,705	88.8%	支払債務の減少による
短期借入金	267	-	-	
前受金	50	39	78.0%	
未払金・設備支払手形	109	153	140.4%	
その他の流動負債	942	1,041	110.5%	
固定負債	3,140	3,040	96.8%	
退職給付引当金	2,979	2,902	97.4%	
その他の固定負債	160	138	86.3%	製品保証引当金の減少による
負債合計	8,682	7,980	91.9%	
資本金	1,460	1,460	100.0%	
資本剰余金	1,228	1,228	100.0%	
利益剰余金	1,615	1,392	86.2%	
(内 当期純損益)	170	122	71.8%	
自己株式	14	9	64.3%	
株式等評価差額	12	14	116.7%	
純資産合計	4,306	4,076	94.7%	
負債・純資産合計	12,989	12,057	92.8%	

売上高の推移

(単位:百万円)

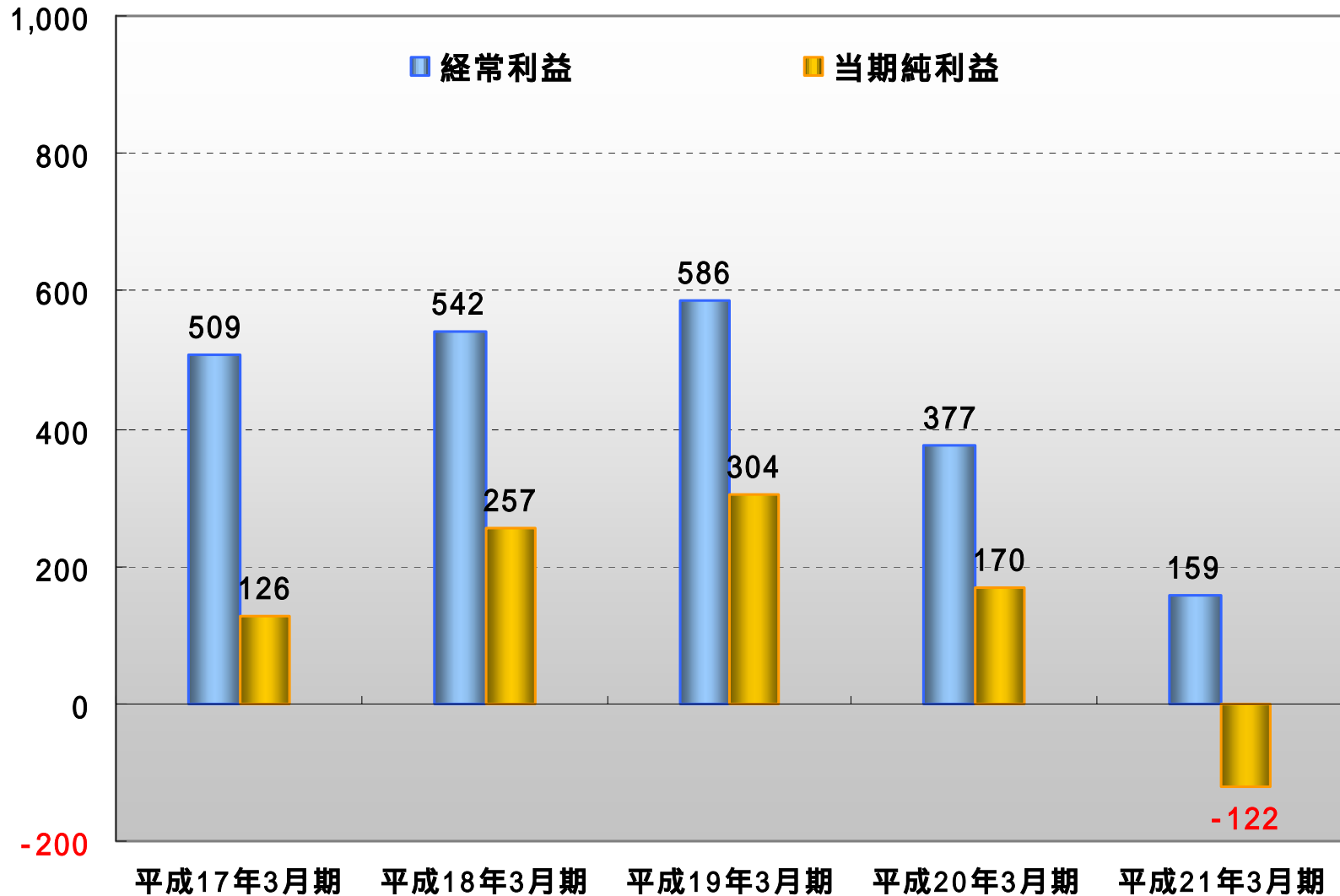
■ 空調事業

■ ボイラ事業



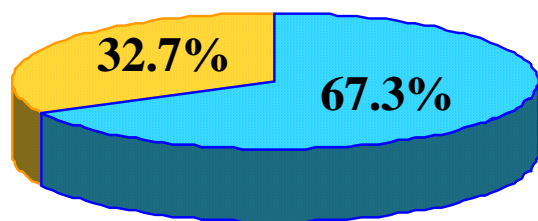
利益の推移

(単位:百万円)



売上高構成比の比較

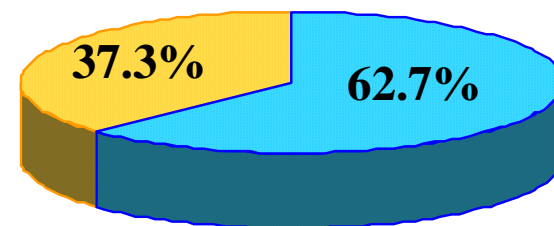
ボイラ事業



空調事業

平成20年3月期

ボイラ事業



空調事業

平成21年3月期

空調事業

機器本体の売上高は、大規模商業施設等で使用される大型吸収冷温水機とコージェネレーションシステム等に使用されるジェネリックタイプの吸収冷温水機等が減少したため、前期を下回りました。

改修改造工事・メンテナンスの売上高は、オーバーホール等の工事が、増加したことと年間保守契約が増加したため、前期を上回りました。

ボイラ事業

機器本体の売上高は、コージェネレーションシステム等に使用される排熱ボイラならびに大型貫流ボイラ等が増加したため前期を上回りました。

改修改造工事・メンテナンスの売上高は、省エネ改造等の工事が減少したため、前期を下回りました。

平成22年3月期 業績予想

平成22年3月期の業績予想



金額単位:百万円(百万円未満切捨て)

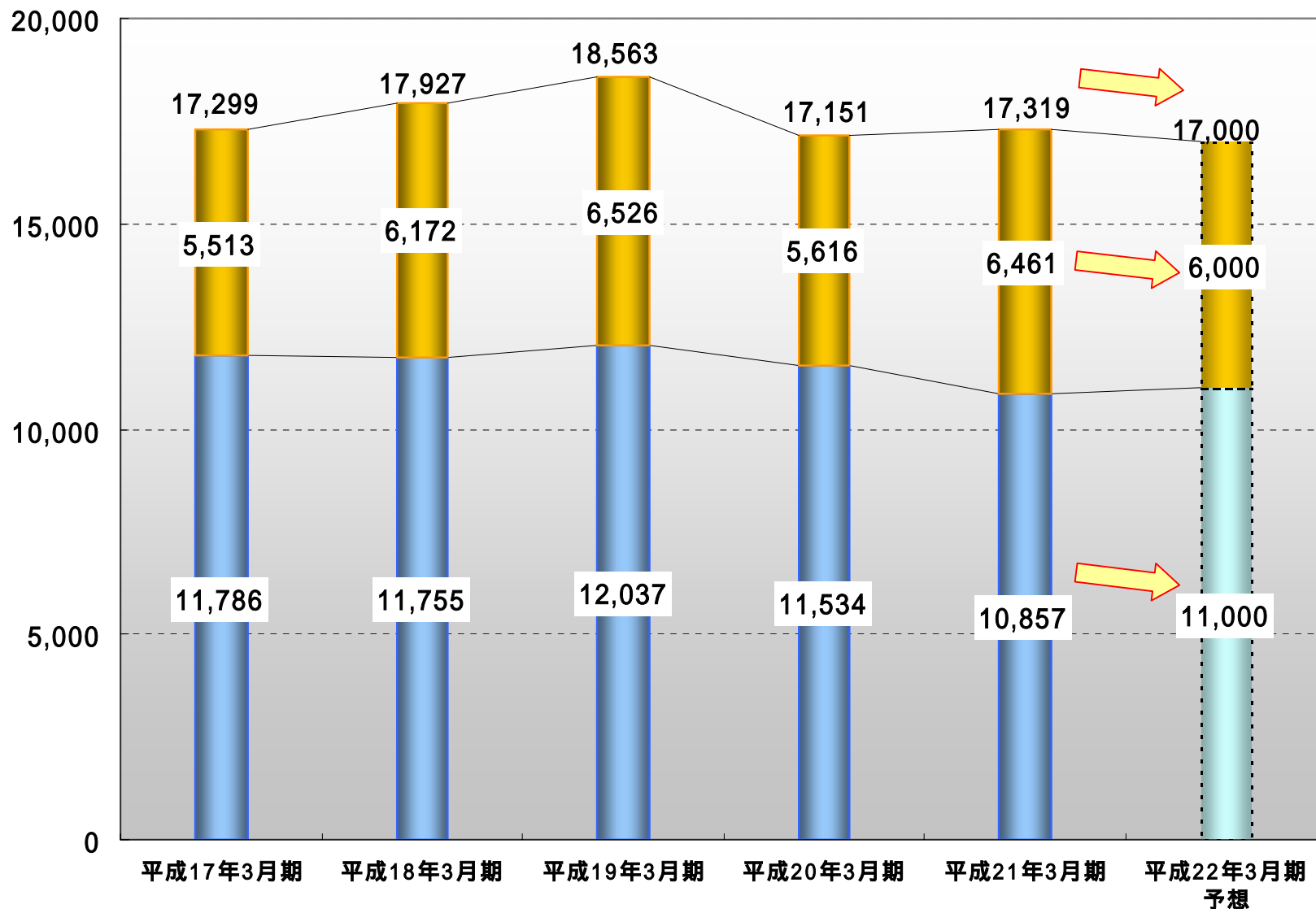
	当 期	来 期(予)	前 期 比	備 考
売 上 高	17,319	17,000	98.2%	
空調事業	10,857	11,000	101.3%	
ボイラ事業	6,461	6,000	92.9%	
営業利益	179	220	122.9%	
経常利益	159	200	125.8%	
当期純損益	122	70	57.4%	

売上の推移(予想)

(単位:百万円)

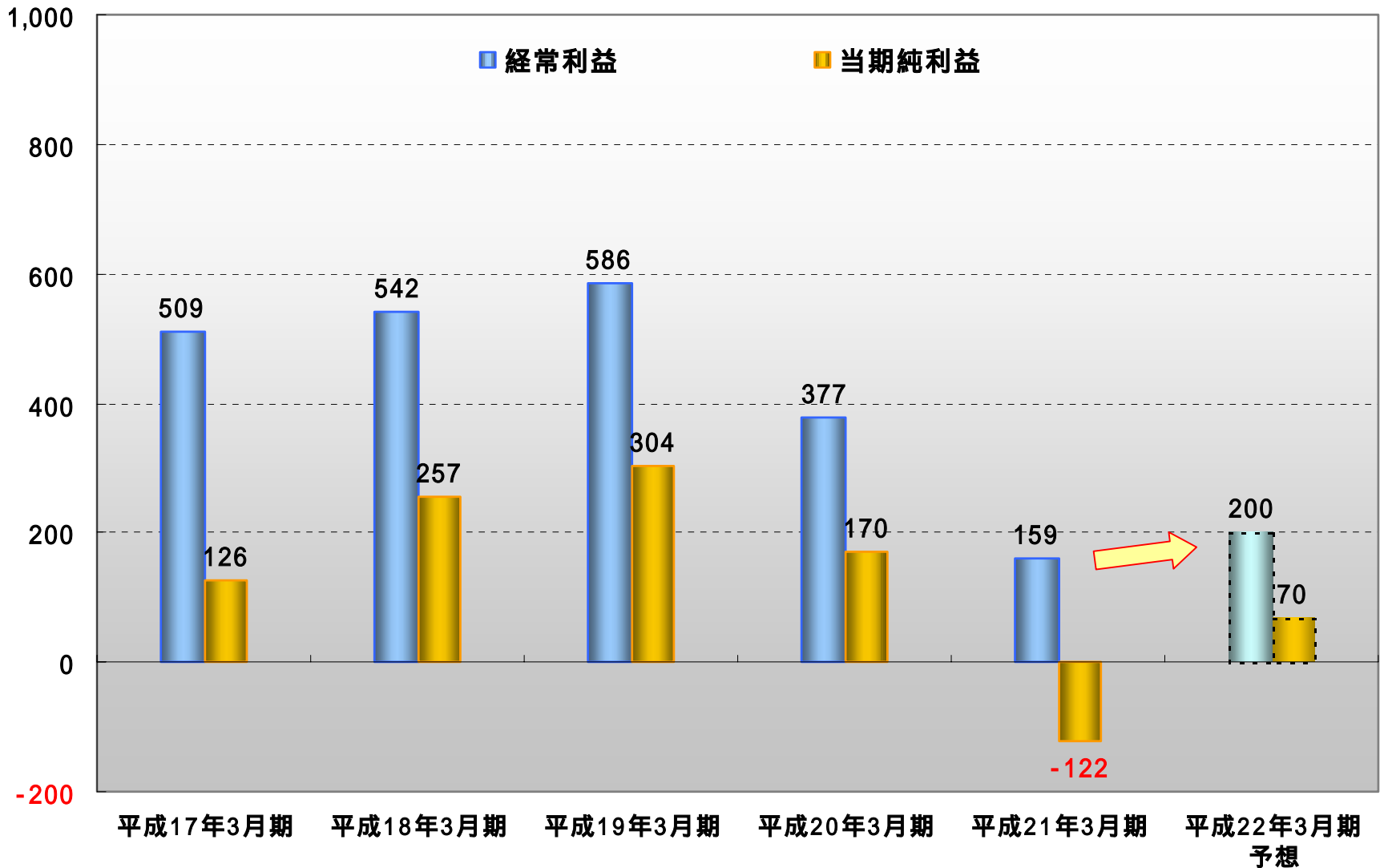
■ 空調事業

■ ボイラ事業



利益の推移(予想)

(単位:百万円)



空調事業

機器本体は、東京ガス、大阪ガス、東邦ガス3社が運営する「吸収式グリーン制度(05基準)」によりグリーン機に選定されたシグマE-ス1.43シリーズと三重効用吸収冷温水機により省エネルギー性を訴求し、拡販に努めます。

24時間遠隔監視のメンテナンスシステム「テレメソテ」の活用および省エネルギー提案を積極的に行い、引き続き改修改造工事・メンテナンスの拡大に努めます。

ボイラ事業

大型貫流ボイラの新シリーズである「イフリートビート」を市場投入し、省エネルギー性に加え、制御性の特長等のPRを行い、拡販に努めます。

改修改造工事・メンテナンスは、引き続き、省エネルギー改造を中心とした工事増ならびに年間保守契約の獲得向上を目指してまいります。

参 考

当社は、「エクセレントカンパニーの構築」を目指し、顧客ニーズにあった商品を業界一級の技術で提供することにより適正利益を確保し、株主には適正な配当を行うとともに従業員および全事業従事者のために人間性豊かでゆとりのある業務遂行と暮らしを創造し続けながら、社会に貢献することを経営の基本方針としております。

当社の関連する空調業界では、環境性を考えて今後も省エネルギーおよび余剰エネルギーを有効利用する機器の開発が活発化していくものと思われます。

ボイラ業界では、貫流ボイラを中心とした市場構造には変化がないと思われます。

空調・ボイラ業界共に総需要は、景気に左右される傾向があり、新規需要に代わり、リプレース需要が増加してくると予想されます。

本資料に関する問合せ



川重冷熱工業株式会社

企画室 経営管理部

TEL 077-563-1111

ご注意

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願いいたします。